

## ケンブリッジ現象の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2013-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安部, 悦生 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/15560">http://hdl.handle.net/10291/15560</a>

## ケンブリッジ現象の研究

安部悦生

本研究は、ケンブリッジ市におけるハイテク企業の勃興と大学のリサーチ活動がどのように連動しているかを探求しようとするものである。

ケンブリッジ市を取りかこむ地域は、現在、イギリスのシリコンバレーとか、ヨーロッパのシリコンバレーとか、言われるほど、ハイテクベンチャーが勃興している。1980年代から活発と成ったこれらの活動——ケンブリッジ現象と呼ばれている——が、なぜ、どのように、ケンブリッジ地域において開花したのかを探求する。

このような視点は、ベンチャービジネスの育成、また企業と大学の産学連携の視点からも、探求可能である。

20世紀に入ってから、ケンブリッジ地域は、多数のノーベル賞受賞者（とくに自然科学）を輩出するなど、自然科学的基盤はあった。またそれをもとに小企業がスピアウトして、独特のハイテク企業が出現したこともあった。1930年代には、いくつかのそうした企業をあげることができる。とりわけ、物理学研究所や、医学系の研究所は、発明・特許をもち、企業化の先陣を切ることもあった。

そうした基盤と伝統の中から1980年代ごろから、ハイテク企業が勃興し始めた。とくにバイオ関係の研究・実用化が目覚しい。

この過程は、まだ十分研究されてはいないので、今後、研究を深める予定である。